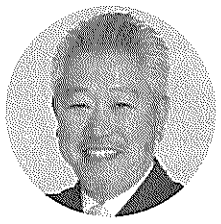
リビング・オブ・ザ・イヤー2014を開催



高齢者住宅経営者連絡協議会
事務局長
田村 明孝
（タムラプランニング&オペレーティング代表取締役）

高齢者住宅経営者連絡協議会（高経協）ではリビング・オブ・ザ・イヤーを初開催する。高齢者住宅（特別養護老人ホーム・老人保健施設・介護型療養病床・有料老人ホーム・グループホーム・サービス付き高齢者向け住宅・分譲型ケア付き高齢者マンション）のジャンルを問わず、入居者の目線でより住み心地の良い、より快適で安心な高齢者住宅を選定し表彰する。社会的に望ましい高齢者住宅のイメージを明らかにするとともに、入居者にとっては、選ぶ際の一助に、事業者にとっては目指すべきハード・ソフトの目標とするのがねらいだ。過去3年以内に開設した高齢者住宅がエントリーできる。高経協の田村事務局長に開催の主旨を紹介いただく。（編集部）

共通の土俵での公正な競争目指す

高経協は、ジャンルの如何に拘らず様々な種類の高齢者住宅の経営者が会員となって、高齢者住宅業界全体の発展を目指して、高齢者の住まいの課題の改善と、消費者の立場に立った終身にわたる尊厳のある暮らしを支える住まいの場を提供することを目的として、2010年4月に発足した任意の団体で、現在51社が加盟している。（会員企業が占めるシェア：介護付有料26%、住宅型有料5%、サービス付き高齢者住宅（サ付き住宅）7%、分譲型8%、グループホーム2%、特養0・4%、老健0・5%、介護療養病床0・8%）

一般的に事業者は、高齢者施設や居住系のそのジャンル毎に団体を組織して、団体の利益を確保する活動を中心に行っているが、高経協はそれら団体とは異なり、将来に向けての高齢者住宅が社会にとって、どうあるべきかの立ち位置を明確にする目的で「高齢者住宅のあり方に関する提言」などの社会提言を実施し、また会員企業の品質向上のための研究会などを開催してきた。

特養や老健、介護療養型医療施設は介護保険上は「施設」に分類されるが、本来は、「住まい」プラス介護サービスであるべきであるというのが基本的なスタンスだ。わが国では、制度上、複雑な構造になっているが、グループホームや有老ホームやサ付き住宅なども含め制度の垣根をなくし、高齢者の介護という統一の土俵に乗って、利用者の適正な選択眼により公正に事業者が競い合う時代を想定して活動している。

当てにならないメディアランキング

週刊誌で有料老人ホームやサ付き住宅のランキングが発表されると、入居者やその家族、また事業関係者に話題となることがしばしばある。筆者自身もデータや基準となる。数年かけてこの制度が定着できるよう目指していきたい。

締め切りは3月末

日本国内で2011年4月から2014年3月に発表及び運営を開始した高齢者住宅がエントリー対象となる。本来であれば2013年度の1年間を対象期間とすべきであるが、第1回目でもあり3年間に対象期間を拡大して募集する。

さらに次の条件を1つでも満たしていればエントリーできる。

①独自の医療連携、あるいは看護・看取りを行っている

②認知症ケアについて独自のプログラムや人材育成を行っている

③地域との連携を積極的に行っている、もしくは地域の拠点として活動している

④過去にない斬新なコンセプトに基づいて作られた高齢者住宅である

⑤省エネ・CO_2削減・創エネにおいて新たな試みがなされている

自薦・他薦を問わず、1次審査用エントリーシート（ホームページからダウンロード）に記入して、パンフレットを添付して事務局あてに郵送ないしはメール添付で簡単に申し込みができる。シート記入に際しては、自由記入のアピールポイントを評価することとなるので、応募担当者には特に力を入れていただきたい。エントリー受付は3月末日まで。エントリーホームは、4月にそのすべてが公表される。

最終選考へ7施設 秋に公開プレゼン

エントリーした高齢者住宅に対して、高経協役員、リビング・オブ・ザ・イヤー委員会委員、高経協会員からなる21名の実行委員会によって、応募されたエントリーシート・パンフレット・ホームページなどを基として1次審査が行われ、21カ所が選定される。この21カ所はノミネートホームとして5月に公表される。

実行委員会は6月から7月の2カ月間で、ノミネートホーム21カ所を3人が1チームとなり訪問し、ホームを見学し、運営状況など審査した結果、ファイナリストとして7ホームを選定し、7月に公表される。実行委員会は7ホームを選定するまでとしてその役割は終了となる。

最終選考となる選考委員は、高経協会員のうち実行委員に選出されていない30名と、高齢者住宅に専門的な知識を持った有識者・設計者・介護保険サービス提供者（ケアマネなど）・消費者団体などと、公募によって選出された一般消費者・学生・高経協主催のシンポジウム参加者など70名との合計100名で構成される。

9月12日、日本教育会館一ツ橋ホールで、ファイナリスト7ホームの各10分間の公開プレゼンテーションを行い、選考委員100名の投票によって第1位・第2位・第3位・特別賞などの表彰を行い、大賞・小賞が授与される。またノミネートホームでファイナリストに選考されなかった14ホームも表彰される。

当日会場には選考委員の他、マスコミ関係者・高齢者住宅入居者検討者など、一般の方々もどなたでも入場できるので、大勢の方の参加をお待ちしています。

利用者のために分かりやすい制度へ

高齢者住宅は優性的な不足状態から量の供給が常に求められ、さらに生活支援や介護・看護サービスの質の向上が求められ、認知症ケアや看取りがすべての高齢者住宅に求められる時代になるだろう。

ジャンルの違いによるその内容の相違は、かえって分かりづらくするだけで、いずれは統合の方向に向かわざるを得ないだろう。

制度上もジャンルによって補助金事業であったり、入居者に所得制限があったり、全体を統括する介護保険計画が必ずしも公正で公明とはいえない。

分かりやすい制度へ高齢者住宅の統合が必要となっている今日、統一の物差しを持って優れた高齢者住宅を選定する意義は大きいと考え、リビング・オブ・ザ・イヤー2014の取り組みを行うこととした。回を重ねるたびに、さらに工夫し社会に評価される制度としていきたい。

問い合わせは、高経協リビング・オブ・ザ・イヤー係（03・3292・3289、メール info@kokeikyo.com）へ。

たむら あきたか
1987年「タムラ企画」を設立、代表に就任。
有料老人ホーム・ケア付き高齢者住宅などの開設コンサルティングを手掛け、約30棟をオープン。事業計画策定は500件以上に及ぶ。一方で高齢者住宅への入居検討者に対する相談センターを開設している。毎年北欧視察を主宰して本年2月開催で33回を数える。テレビ・新聞・週刊誌等出演や取材、講演活動や書籍の出版多数。

多様な高齢者住宅から優良事業を表彰
複雑な「住まい」の制度、統合への一歩

福祉・健康ビジネス最前線。NAGOYAからの情報発信。
鉄道あおなみ線　名古屋駅から24分　金城ふ頭駅下車
同時開催　おやのため、わたしのための総合施設展&終活フェア2014 ～人生のエンディングを考える～　会期：5/23(金)→25(日)
出展募集中
welfare2014
第17回 国際福祉健康産業展
ウェルフェア2014
入場無料
5/23(金)→25(日)
10:00～17:00
会場／ポートメッセなごや（名古屋市国際展示場）
主催／名古屋国際見本市委員会・(社福) 名古屋市総合リハビリテーション事業団
共催／日刊自動車新聞社・中日新聞社　広報協力／シルバー新報
問い合わせ先：名古屋国際見本市委員会事務局　TEL：(052)735-4831　FAX：(052)735-4836
URL　http://nagoya-trade-expo.jp/welfare/　E-mail　welfare@nagoya-trade-expo.jp
ウェルフェア　検索
第2回　中部ライフガードTEC2014
防災・減災・危機管理展
「防災」・「減災」・「BCP」をテーマに開催！　会期：5/22(木)→23(金)
中部ライフガードTEC　検索